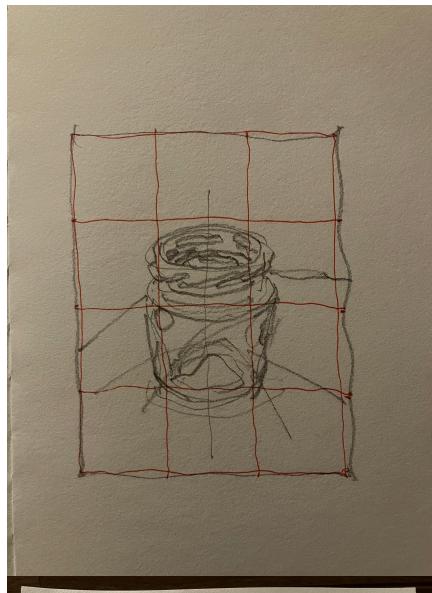


塗

1時間アクリルデッサン  
～ガラス瓶～

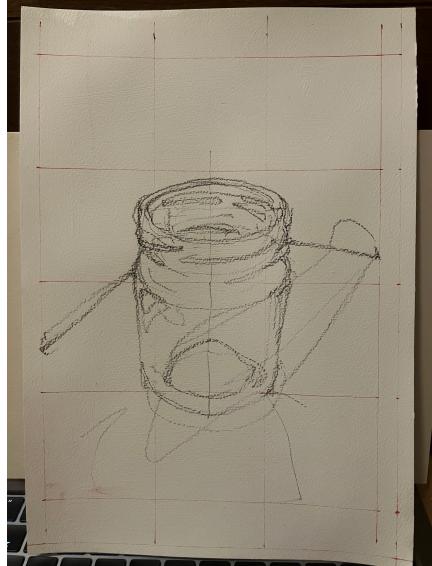
下準備：厚めの水彩用紙にジェッソ（下地剤）を刷毛で塗り、一晩乾かしておく。

1. スケッチ（5分）
2. グリッドとスケッチを画面に描き写す（10分）
3. 画面を机に固定する（5分）
4. 太目の刷毛（2cm幅）で、黄、赤、青の順に、色を載せていく（15分）
5. 中ぐらいの平筆（1cm幅）で白を載せていく（10分）
6. 細めの平筆（5mm幅）で赤黄青を使って細部の形をなぞっていく（15分）



#### 1. スケッチ（5分）

スケッチ用紙に簡単に瓶と机の淵をスケッチし、画面をどのように切り取りたいか構図を決める。今回はわかりやすく4:3の縦横比にし、赤色でグリッドを描き込む。こうすることで、画面に下書きするときにスケッチの配置を再現しやすくなる。



#### 2. グリッドとスケッチを画面に描き写す（10分）

スケッチを写しとるために、画面にまずは4:3のグリッドを描き込む。グリッドの区分を頼りに、配置を正確に写しとる。また、今回はガラス瓶が画面の真ん中に来るよう配置しているため、正中線も書き込んでガラス瓶が左右対称であることを確認する。主役の瓶だけでなく、机の淵や机面に現れる反射や影などをよく観察し、主要なものを描き込む。

### 3. 画面を机に固定する (5分)

マスキングテープで画面をしっかり机や板面に固定する。こうすることで、出来上がった時に、絵の周りに綺麗な白い淵ができる、完成度が高まる。

### 4. 太目の刷毛で、黄赤青の順に、色を載せていく (15分)

2cmほどの幅の刷毛や平筆を用いて、ざっくりとした色彩を載せていく。色は三原色に限定した方が、混色の勉強になる。透明なガラスと白い壁面、白い机面で構成されているモチーフなので、まずは黄色で背景と机を区別していく。ここで、机面に現れる反射や黄味が勝っている部分なども少し黄色を入れていく。

二色目は赤でも青でも良いが、今回はあまり暗い部分がないので赤色で机面とガラスの透けているところを表現していく。ガラスの反射で白いところはなんとなく残してガラスらしさを追っていく。



3色目の青で、画面の中で最も暗い部分に着色していく。ここまででは太い刷毛を使っているので、細部は書き込まなくて良い。



#### 5. 中ぐらいの平筆（1cm幅）で白を載せていく（10分）

1cm幅ほどの平筆に持ち替え、白を使って黄色すぎる背景を落ち着かせたり、あかすぎる床面を落ち着かせたりしていく。またガラスの中の色の流れなども白を用いて暗いところと白いところの境界を丁寧になぞり、よりはっきりとさせる。びんの開口のところの形（シルエット）も白を使ってシャープに背景と区別する。



#### 6. 細めの平筆（5mm幅）で赤黄青を使って細部の形をなぞっていく（15分）

最後に細い平筆にもちかえ、赤黄青+白を用いてガラス瓶の輪郭を整えたり、瓶上部の細部の形態を書き込んでいく。